

帰国した戦犯の55年

—「中帰連」とどう関わってきたか—

はじめに

第1部 後半生前期の27年（43歳～70歳）

- (1) 「起訴免除—即日釈放」
- (2) 舞鶴港にて〈メッセージを発表する〉
- (3) 長野県上田染谷丘高校に復職する（3年半）
- (4) 2年間の浪人時代〈就職運動、中帰連会誌の編集参加〉
- (5) 藤沢東海岸郵便局長時代〈昭和36～56〉～中国文化大革命の余波を受けて中帰連が「中帰連（正統）」と「中帰連（中連）」に分裂し、名目会員から「脱落分子」へ
- (6) 定年退職後から会への復帰まで（昭和56～58）
 - ★ 自叙伝の執筆
 - ★ 『新編三光』出版記念集会」に出席
 - ★ 「中帰連」（正統）第5回全国大会に出席（会に復帰）

第2部 後半生後期の28年（70歳～現在）

- (1) 「中帰連」（正統）へ復帰する
- (2) 統一への始動から統一まで〈昭和58～61〉
 - ★ 「元撫順・太原戦犯管理所職員代表訪日団」の招待
 - ★ 「統一促進委員会」誕生
 - ★ 「統一第1回全国大会」開催
- (3) 統一直後2年間の活動〈昭和61～63〉
 - ★ 「統一代表訪中団」の派遣
 - ★ 会の活動資料を管理所へ
 - ★ 撫順の「桜花飯店」への寄贈
 - ★ 「謝罪碑」の建立
- (4) 常任委員長としての10年間の活動〈昭和63～平成10年〉
 - A, 侵略戦争に反対し、平和を守る活動
 - ★ 天皇の戦争責任を問う
 - ★ 自衛隊の海外派兵に反対する
 - ★ 従軍慰安婦についての証言
 - ★ 「731部隊展」への参加
 - B, 日中友好のための活動
 - ★ 中国の図書出版への協力
 - ★ 会が組織した訪中団
 - ★ 会が招待した中国訪日団
 - C, 広報・出版活動～
 - ★ NHK放送「戦犯たちの告白」
 - ★ 日本テレビ「ある戦犯の謝罪～土屋元憲兵少尉と中国」
 - ★ 雑誌『進歩と改革』へ会員（13名）の戦争証言掲載
 - ★ 会編訳『覚醒～撫順戦犯管理所の6年』を出版
 - ★ 会編『帰ってきた戦犯たちの後半生～中国帰還者連絡会の40年』の出版（「新風書房」）
 - ★ 季刊『中帰連』発行
- (5) 「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」特別会員として（85歳～98歳の現在まで）
 - A, 執筆活動
 - B, マスコミ等の取材に答える
 - C, 戦争証言活動

おわりに